



獅子座同盟

*Leo alliance 14
21 Lions and 147 tanka
2026 summer*

獅子座同盟

14

宇祖田都子

凌

キキキキウ

淀美 佑子

早川夏馬

堂那灼風

桐野黎

舟橋いま

麻倉ゆえ

宮嶋いつく

壬生キヨム

おさとう

千原こはぎ

月岡浅穂

門脇篤史

森内詩紋

水や

ソウシ

雅佳翠

佐竹紫円

河原こいし

(誕生日+お名前順)

獅子座有志による獅子座アンソロジー

テーマ「星・宇宙・星座・獅子・夏」

動物園のライオン

異次元の壁に寝そべるライオンが尻尾の先に見え隠れする

迷宮のような動物園がある檻やケージの表も裏も

失った原風景は迷宮のうちに分割されたサバンナ

獐猛な空腹感を持て余し原風景は夏を迎える

残像と戯れている子らの影雄ライオンの瞼は厚い

真剣に命を奪い合うことは互いの影を奪い合うこと

しばらくは寝そべっているライオンが浮かべた笑みを見ていたかった



うそだみやこ
宇祖田都子

@shinnsyutu2020

07/23

獅子座同盟の告知が流れてくるといよいよ「夏」だと感じます。いつもは「宇宙」や「星」で作ることが多いのですが、今回は動物園のライオンでまとめてみました。作っていて、ひさしぶりに中学校のときのことを思い出しました。今回も自分ルールで「ししごどうめい」の折句です。それでは素敵な夏を。

中学は陸上部で走り高跳びをやっていた。動物園で雄ライオンを見ると、そのときの顧問を思い出す。人気も威厳もないおじいさんで、本人もその状況に苛立っているように見えた。わたしは背面飛びを教わり、放課後はバーと空の間で過ごした。一度、顧問が笑ったことがある。その顔だけは幸せそうだった。

サマー・スター・リセット



星を押すと通知みたいに光る夜 既読のないまま宇宙は広がる

君の名前を勝手に星座にした日から空が少しずつ私に傾く

コンビニの光で星座は上書きされて夜が少しだけ安っぽくなる

蟹座なの？ 獅子座なの？ カレンダーの端で決めきれない私はネコ科に逃げる

宇宙の端で「助けて」ひとつ言えなくて漂う心は無重力

光年なんて全部距離の言い訳で近づくほどに遠くなるだけ

夏の終わりを誰も保存しなかった 空は何度でも初期化される

キキキキキウ

@meinalltag_

07/23

口に出すと少し緊張する名前で短歌を詠み、
本と花を愛でています。人間万事塞翁が馬。
猫過激派。珈琲が血液になるまで諦めません。

私の誕生日、7月23日は蟹座と獅子座の狭間にいる。獅子座未満の蟹座。蟹座に弾かれた獅子座。星占いを見ても所属がいまいちはっきりしない。誰に聞けばいいのかも分からないので、ネコ科の獅子につくことにした。そうしたら、今回は私の誕生日もばっちり獅子座だ。短歌とネコ科が繋ぐ縁である。

星を待つ

かつて見た星の話を
する君の伸びっぱなしの髪がゆらめく

夏シャツが（果たして
いない約束のように）重たく張りついてくる

宇宙色らしい放って
寄せられたやたらと甘いこのカフェラテは

流星を君と待ちつつ
こうやって何かをずっと待ってるのかも

見えるものすべてが
別れのためにあり超新星のつよいまたたき

きつと君はまた星を
見るその時の隣が僕じゃなくてもきつと

夜はみなすべて遠く
だからただ眠ろう君と朝になるまで



はやかわ なつ ま
早川 夏馬

@kakahayama

07/25

東北芸術工科大学のクリエイティブでない学科卒。程度のひどいオタク。犬派芝党。ちょろいので夏生まれを好きになりがち。友達超少ない。2019年、短歌沼に落ちる。未来短歌会所属。偶数月に山形駅前で歌会開催中。短歌な獅子座のみなさん、今年もお誕生日おめでとうございます。

天体望遠鏡を買った。アパートの最上階に引越したのがきっかけだ。実際空がよく見えるようになり、冬から春にかけてはよくベランダから星を眺めたが、あまりにも寒すぎてすぐ部屋に引っ込んでしまい、望遠鏡は使えていない。そのまま夏になってしまい、毎晩暑くて望遠鏡は仕舞いっぱなしになっている。

ネプチューンリターン

出生のホロスコープの底深く海王星は深く揺蕩う

ひたひたと海王星に寄り添われ私の月はいつも臃で

水星は海王星に覷されてとりとめのない囁言零す

金星と海王星を軋ませて美を求めれば海色の罅

海月天冥木描く小翼は私を何処へ連れてゆくのか

執拗に幻を追えと海王星の背後にうねる蠍座

はるかなる波を身に帯びわたり行くネプチューンリターン叶わぬ生を



きりのれい
桐野 黎

@Tower11710

07/26

今年も獅子座同盟に参加できて嬉しいです。時々自分のホロスコープを深掘りしてしまうのですが、無意識、夢、幻想、曖昧さ、融合などをあらわす海王星は気になる星です。今年はそんな自分の出生ホロスコープの海王星を詠んでみたというとても個人的な連作になりました。

出生時の土星と同じ位置に土星が戻ってくることを占星術でサターンリターンという。土星の公転周期つまり約30年ごとに来る。人生の重要な節目だとか。約84年のウラヌス（天王星）リターンまでは生きているかも。でも海王星は公転周期が約165年だからよほどのことがない限り経験できそうもない。

手もとの宇宙

星からは光だけしか受け取れず大気も画面も薄い障壁

光年で距離を数えるヒトなんて1^{メートル}mのオーダーなのに

探査機が行って掴んだデータにもノスタルジアを感じる生命^{いのち}

ラズベリーチョコつまみつつ指先は仮想宇宙をスクロールする

千年前ならば陰陽寮だろう暦^{れき}計算もできるアプリは

星々の動きを紡ぐスクリプト闇に指揮して声を重ねる

この世ではプラネタリアンにはなれず海の底には僅かな光



あさくろ

麻倉 ゆ え

@AsakuraYue

07/29

あまり歌を詠んでいない歌人。

あまり星を見ていない星空案内人。

もう少し頑張りたいけど、不眠と不調に振り回される日々。

57577のリズムの断片と、天体の運行のルールが、頭の片隅に渦巻いている。

外の世界へ出られないとき、

手もとの端末を世界の外に

接続する。地球生命として

終わるであろう自らの視界が、

生まれる前や死んだ後の

莫大な時間へと旅する。

まだ生きている。まだ生きていく。

できる限りの光を掴む。

空虚のとうえかた

雨は良い言い訳になり今日もまた喧嘩をしたくて来る月と叔父

細長い人差し指をピンと立て振ればわんこが喜んでいる

優秀な超能力者が休職中差し入れとして持ってきた雪

美しいものをそのまま愛でるだけなのにお前は理屈っぽいな

ピエロいわく、月の涙はレモン味 あとはどうして泣かせるかだけど

無神経なあいさつがわりの微笑みの犯人は夜 今日ほ三日月

ダダイストはおろか未来派にもなれず人生派として歩けば叔父は



み ぎ
壬生キヨム

@kiyomumibu

07/30

「かばん」。文学フリマで自作の短歌の本を作って頒布しています。今年の誕生日は山梨で桃のパフェを食べている予定。

風が吹けば少しは涼しいが気温は高く、三日月の微笑みはぼくをいらつかせ、川のほとりを歩いていくうちに徐々に月と金星は近づいていくのだがふたつはこれから通る道も実際の位置も全然違っていてぼくにはごくたまにひんやりとした風が頬を撫でるだけだが、こんな夜に月と叔父は出会ったんだろうな。

朝になつたつていい

真夜中を駅を背にして走る道 星の名前も思い出せない

星座って離れた星を結ぶこと いつなら、なんてもう訊かないよ

渾身の願いごとは届かないからきみは自由に流れればいい

星屑は燃えて消えるね かなしみもすこしは光ったりするのかな

宇宙には境界線はないらしい またかんとんに触れられている

すぐそばで眠っていても星と星くらい遠くて つよくなりたい

この夜を何度も何度も繰り返すそろそろ朝になつたつていい



ち は う
千原こはぎ

@kohagi_tw

07/31

隔月刊の短歌誌「うたそら」編集鳥。鳥歌会・滋賀で歌集を読む会主催。短歌アンソロジーや折本歌集などを作っています。

歌集『ちるとしふと』（書肆侃侃房）、短歌本『これはただの』（私家版）。

今年も楽しいことをたくさんしよう。

ずいぶんと見慣れた道も、真夜中は違う道かと思うくらいに真っ暗な闇に沈んで動かない。何もかも慣れてしまったひとと、指すらも触れないままに、どうでもいい話をぼつりぼつりしながら、煌々とライトで夜を切り裂いた。たぶんこのまま、いつもと同じ変わらない夏が終わってゆくんだろう。そろそろ朝を連れてこなくちゃ。

記憶の中の星のこと

見も知らぬ異国の麵を茹でながら湯に膨らめるさまを見てゐつ

この国にただくたびれて思ほゆるパヴェル・ネドヴェド走り止まずき

中津江村は名こそ残りてしづかなれ不屈の獅子に浪速の黒豹

ゆつくりと麵は伸びゆく銜ひなく天才を天才と呼ぶあかるさよ

永劫を耀ふ星の明るさをまとひて疾きウクライナの矢

鍋底に焦げは残りてこの星に銀河系軍団かつてありにき

横浜の夜に耀ひしロナウドの左の胸を五つ目の星



かどわき あつし
門脇篤史

@508atsu

o8/o2

未来短歌会で短歌を作っています。久しぶりに参加しました。最後に参加してから8年が経ち、その間に死ぬほどいろいろなことがありますが、短歌には感謝しています。ありがとうございます。

サッカーのチェコ代表が好きだった時期がある。ネドヴェド、パロシュ、ポボルスキー、チェフ…。いつしかチェコ代表を追わなくなり、サッカーも観なくなった。ワールドカップがはじまると、試合は観ないのだけど、ネドヴェドの豪快なミドルシュートや献身的な動きを不意に思い出す。

金平糖の宵

星屑のなかでひととき青白い金平糖を飼ってみたいくて

まっしろなこねこがまるくなる時間ぼくらがともにいられるあいだ

変わらない四角い窓の向こう側赤い葉っぱの幻覚を見る

穏やかな夜に並んで見上げてた夜空には月、くらやみがある

すこしずつつめなくなった手のひらに多すぎたハンドクリームだけ

閉じ込めた気持ちにリボンかけておく空の鳥籠みたいな部屋で

ああもう、ね。終わりにしようふたりごと最後に食べるケーキの白さ



みや
水や

@m_iya_o

o8/o2

暑くて秋が恋しいです。
小話と短歌はふんわりリンクしています。

アラザンの星屑にこんべいとうを並べて、
真っ白な生クリームの上に撒いた。特別なケーキ。ふたりで、食べる。

にゃあ、とちいさな鳴き声が聞こえた。
ソファでまるくなる子猫は、爪の根元がほんの少しだけ青い。だから。

クリームの端を青く染める。夏の初め、
子猫とともに始まったふたりの終わりへ。

寝ても覚めても夏

海のない県出身の僕にとり「海に行こう」はもはや告白

何らかの流星が今夜降るからと君を誘った嘘はバレてた

夏が好きひまわりも空も朝顔も全部楽しげに生きているから

「予定ない」その言葉真に受けますね夏休みの君僕にください

爽やかを集めてできたものだからシーブリーズは八月の季語

夏バテも君とお揃いカフェインの入っていない飲み物ふたつ

左手でハンディファンを持たないで！真夏でも手は繋いでいたい



がけいすい
雅佳 翠

@gakeisu

08/06

昨年度気付いた時には締め切られた後だったので、今回獅子座同盟に初参加できて本当に嬉しいです。獅子座らしくリーダーとしてちっちゃな会社を運営しています。

まるで初めての恋をしたかのように寝ても覚めてもその人のことばかり考えていた。仕事の合間も何なら仕事中でも。夏のせいだろうか。夏のせいにしておこう。

夏装

「夏色のワンピースです」会うまでは無限の色をもつメッセージ

半袖をさらに捲くった学生とすれ違う 肌、あんなに焼けて

日傘にて遮るものは太陽と世間の目線と親類の声

まだなのと主語を持たない問いかけは無視して君と出かける花火

鼻緒擦れした下駄なんか脱ぎ捨ててすっかり歩くためのサンダル

一人でも歩ける道を君とゆくパピコは二人で分ける食べもの

坂道を駆け抜けてゆけ振り返る必要もない季節のうちに



かわはう

河原こいし

@_little_word_

08/07

圧倒的犬派歌人。今年こそ鼻緒擦れしない下駄が欲しいです。

浴衣は好きだ。ただしわたしは下駄と相性が悪い。そんなわたしを知り尽くしている君は花火大会の荷物にいつもサンダルを入れてくる。

「毎回擦れるのに、なんで下駄履くの」

「風情だよ風情」

君は呆れた顔をして、今年もサンダルを出す。

日陰

「はたちまで生きてるわけがないし」とか笑う横顔を遺影にして

斜陽にも淋しいときがあるだろう　カーテンに隠れて眠る風

灰色のアスファルトを踏むたびに忘れる名前ばかりが増えて

咆哮は届かないから夕風のあとの浜辺でロウソクを吹く

現像はまだされぬまま指先は色づいて蝶結びをほどき

残響が光になるまでの日々を少しずつ飲み干すような夏

星々は回りまわってほんとうの居場所へ還るだろう　ゆっくり



りょう
凌

@ryo_ibam

08/08

沖縄の隅っこで生まれました。夏に生まれたのに根暗。海にかえる日まではのそのそ生きていきたいです。

高校生のとき、教室でみんなに誕生日を祝われているひとが羨ましかった。真夏の昼間、わたしはひとつ年を重ねたのに、通知の来ないスマホ。それはいつだって夏生まれの宿命だった。夏が明けても学校にはいかなかったから、そのあとのことはよく知らない。今年は君が祝ってくれれば、それだけでいいよ。

夏の窓

夏生まれだから暑さにつよいはず 思ふつよさがそのまま獅子座

焼売が弁当にある一点で背すじのびたり勤務日の朝

「おだいじに」くりかへし言ふ大事とはいかなる所作かふと爪を見る

この世から失効したるわたくしを捜し役場の窓口へゆく

生まれきた日の記憶などないながらパスワードより忘れぬ月日

獅子といふ王者の星に生まれつつ流星群へ幾度もねがふ

吉兆を星のまにまに読むやうにビル風にさへあすを読みたり



よどみ ゆーて
淀美 佑子

@yodo_yo_mi

08/09

お久しぶりです！ 以前『獅子座同盟』で詠んだ歌も、第一歌集『ツガイムスビ』（笠間書院）に収録しました。この場が続いていることに感謝します。中部短歌会所属の江戸っ子。チカヨミで同人誌発行。

調剤薬局事務に転職して三年が過ぎた。仕事を通して、日常の定型句や生年月日が、以前とはすこし違う響きを帯びてきた。

それでも、流星群に三回以上お願い事をしてしまう、大雑把で欲ばりなわたしは、わたしのままだ。

獣の法

薄暗い雷鳴よりも草陰に伏せた息遣いをこそ恐れよ

シマウマは死ぬほど強く蹴り飛ばし死ぬほど噛み返されて斃れた

大勢は通れない道を取り合って話し合わないという英断

奪い合うほかにないなら吼えるだけ交わさないのが良いものもある

強大な牛を噛むのと同じ貌 敵の子を噛む雄ライオンは

黄金の毛並みの下の古傷を忘れつつあるライオンの老い

力ある者がすべてを取りなさい それが獣の法だとしたら



どうなしゃくふう
堂那灼風

@shakufur

ライオンのネタ切れが近い!

08/10

ことわざのライオンといえば勇猛、権力、強者といったイメージの象徴だと思う。野生におけるライオン的なものと人間社会におけるライオン的なもの、簡単にイコールで結べるものでもないような気がします。

Leo

市街地で星を数えるまぶしさが乳歯のようですこし笑った
太陽が似合わぬぼくを差し置いて文月・葉月の波間に坐る
終戦の意思を謳うにふさわしいどの夜からも見えるおまえは

強いひとの決して強くはないところ ライオンの寝顔のカレンダー
ひとの死をすべて照らしたおまえなら噛み砕くだろうどんな氷柱も
レオ ぼくのなかにはずっと夏がいてイルミネーション以上のひかり
星と星 器用に結べないゆびを開くからいま握り返して



ふなと
舟 橋 い ま

@funatoima

08/10

火曜日生まれ。

短歌ユニット「きみの助手席」で活動しています。

今回、獅子座同盟の企画に初めて参加しました。短歌の天体観測、どんな星と出会えるかわくわくしています。

獅子座生まれがずっと似合わないと思っていた。花言葉は信じないのに、なぜか星の性格診断はちょっぴり気にしてしまふ。でも歳をとるにつれて、その獅子は自分自身ではなく、心に棲んでいる守護神のように思えてきた。だとしたら、こんなに頼もしいことはない。久々に、その姿をちゃんと見上げてみたい。

Wanna be a Lion



ライオンのぼくがすごいと言われないそんな世界は政治が悪い

野うさぎを全力挙げて追うことをダサイと言って飢えるライオン

百獣の王に生まれてきたことは約束された未来ではない

ライオンが南の果てで見たものはゾウアザラシの悲しみの丘

生きるため屍肉をあさるハイエナが行き倒れてるライオンを見る

ライオンはそもそも強いがライオンは戦わなければ生きていけない

百獣の王の威信を身に纏う夢見るだけのワナビーライオン

みやじま

宮嶋 いく

@miyazima_izq

o8/11

松江城の大手前で観光客を乗せる人力車の車夫の男性と話をしていたら、その人は暑ければ暑いほどいい、三五度から本番と笑って人力車を引いて駆けていきました。こういう人が本物の夏男であることだなあといいながら自分はエアコンを効かせた部屋で涼みました。

「生きているなら希望が持てる。

生きている犬は

死んだライオンよりもまだからだ」

一伝道之書 九章四節

ラーの夏休み

神さまも息抜きしたい夏ですか 台風はきつとあなたのため息

太陽に料理されている気分 火が通るくらい世界が熱い

人類はいつから錯覚していたの アイスになるのはお前の方だよ

エアコンがいかれた部屋には居られない 涼を求めてほつく獅子女^{スライイングス}

よく冷えた宇宙を注ぎお好みで天の河入れてアيسコーヒー

懐かしい夏が近づく 瑠璃色の水たまりをいま揺らしているから

いまだけは想い出の夏に触れていたい 凌霄花が見ていたあの日々



おさとう

@sugar_to_osatou

08/12

獅子座同盟に向き合うとき、夏休みの課題を
こなしたかつての自分に会える気がします。
六度目の獅子座同盟もどうにか提出できました。
どんなに遠くに行っても獅子座の頃には短
歌のところへ戻って来られるので、お盆に帰省
しているような気持ちです。
来年もまた帰って来られますように。

太陽の神さまが今年もはりきっている
夏休みには少くく休んでいいのよ
夏休みの宿題はもう終わりましたか
さっさとすぐに仕上げるわけでもなく
ギリギリになって片付けるわけでもなく
だらだらと猛暑を残すのはやめてね
しがたにんげんはささやかな夏を
いま楽しもうとしているところですよ

「夏」という名のシャッター

新たなる日の幕開けとともにいる長いたてがみトップランナー

聴け！これはわれらの咆哮いかりから生まれる地上の天の川

サイダーの泡が氷と溶けあった円い星空飲みほしていく

青春を切り取られる側だった頃「夏」という名のシャッターを押す

冷たくて美しいまま瞬いて最後のメロンクリームソーダ

半袖の制服ひらり夕暮れは話し足りないことばかりだね

飛ぶように過ぎる夏の日いつかまた花火となって会えますように



つきおかあさぎ
月岡浅葱

@pale_bg_moon

08/12

夏生まれ、南国育ち。故郷に帰ってきてから、のびのびと創作できるようになった気がしています。今年は三度目の参加。最近はアナログに、ノートへぼつぼつと書き溜めています。いつかまとめられたらいいな。

今はもう過ぎ去ってしまった夏と、歳を重ねた今だから経験できる夏。どちらもまぶしく、それぞれの良さがあり、愛おしい。昔よりは少し、ライオンみたいな強さを持てるようになったかな。あの頃の私も、今の私も、はい、チーズ。

近くて、遠い

おもむろに白雨は過ぎて闇を呼び星はまばたくや頼りなく

水たまり踏まないようにゆく君をひきとめたくて「星！映ってる！」

一足を遅れただけでパーセクもあいた気がする 飛んでかないで

一心に見つめる時は流れない だからメテオは君に似ている

星数え二人で過ごす短夜に咎あるならば僕のみを打て

南から僕の胸撃つシャウラとは鉤針の星蠍の毒の

さざ波も立たぬ水面に映る星こんなに近く果てなく遠い



もりうちしもん
森内詩紋

@NJq4oEvg5glcRpu

08/12

イーハトーヴで#日常歌を詠んでいます。
年々の暑さに、毎日半分溶けています。

何万パーセクも離れてる星と星の間でも
宇宙の密度を考えるなら、密着している
ようなもの……らしい。

それが本当なら、川の向こうに住む君と
僕との間の距離なんて、ほとんど0だと
言えるんじゃないかな。

なんて呟いてみたけれど、今夜も数多の
星たちは黙って見つめ返してくるだけ。

獅子の爪は星

獅子は獅子らしく装う夏越からのぼした爪にやすりをかける
誕生石の話をきいたその足でペリドット色のエナメルを買う
つやつやのコートなされた爪に触れ星とはきつとこんな手触り
ヘラクレス、さそり、大三角、銀に塗った指先折り曲げながら
誰の詠む歌かはすぐにわかるよと誌面流れてゆく厚い爪
手の甲は見えない側だ（ふり返す）こんなにも美しい流星を！
おしまいに来るったら来る夏未明 除光液にて拭い去る星



ソウシ

@sixiaOuT8BMBIgp

o8/15

ソウシです。

ネイルは好きです。上手くはありません。いつかジェルネイルをするのが夢です。

ツンと涼しい匂いで爪をこする。ぎっしりと星空のつもりで散りばめたラメはなかなか落ちない。爪のきわにほんの少し星空を残したまま、季節が進んでいく。

永遠の瞬間

また夜の帳が降りて残された日々をただ慈しむと決めた

限られた日々だからこそかがやいてこの選択に後悔はない

さよならは伝えなかったその代わり光のようなその名を呼んだ

その夜を見守っていたあの月と同じ形の月が昇って

夏の夜に控えめにひかる星がありその横顔に少し似ている

その星が例えばあなたの星ならばどんな夜にでも探し出そう

永遠の瞬間がどこまでも続くあなたが確かに生きた世界で



さくけしえん
佐竹紫円

@shienkotonoha

08/17

2回目の参加です。10年ほど離れていた長編の執筆を再開し、完結に向けて走りながらこの連作と短文を仕上げました。長編と関係があったりなかったりします。これが皆さまのお目に留まるころには長編が完結しているといいなと思います。ところで好きなアイスはガーナチョコ&クッキーサンドです。

時間が限られていることを知りながら、それでも隣に立つことを選ぶのは合理的ではないらしい。けれどその選択を変える気はないと伝えたと、困ったように微笑んで、それから静かに頷いた。幸せですか、と問われたから、もちろんですと答えた。あなたはどうかと問うと返ってきた微笑みを、忘れない。



獅子座同盟 14 獅子座有志による獅子座アンソロジー

発行：2026. 07. 23 短歌：獅子座有志の皆さん

企画・編集・制作：千原こはぎ (@kohagi_tw) / Illustration：Stan Mikov

